



令和7年度ふじさんネットワーク 総会・交流会・勉強会の開催

令和7年度のふじさんネットワーク総会を、6月21日（土）に沼津市のプラサヴェルデにおいて開催しました。

総会は、正会員252団体のうち、出席と委任状提出による計142団体の参加により有効に成立し、令和6年度収支決算、令和7年度収支予算案等について審議、議決を行いました。

第6号議案において、新設補助金の交付要綱のうち、補助対象となる活動内容例に「マナー啓発」に関する活動を記載するべきという意見が出され、議長一任で修正することが議決されました。それ以外の項目については、全て事務局案のとおり議決されました。

総会後、令和7年度新規事業である交流会を開催しました。この交流会は、ふじさんネットワークの会員の取組や抱える課題について、会員相互に情報を交換しながら富士山の環境保全活動に取り組んでいく体制を構築するために企画したものです。

交流会には41名の会員が参加し、参加者は事務局が設定した4つのテーマのうち、興味関心のあるテーマで情報交換を行いました。
各テーマと、交流会で出た意見は下表のとおりです。

テーマ	意見
『富士山のごみ問題、登山マナー等』	●ごみ問題は、概ね改善されている ●登山マナーについては、今年から入山規制が始まり、その影響がどうなるかに注目したい。また、近年増加している外国人登山者の動向も、今後の課題となる ●富士山は、他の山と比べて観光の延長線上にあることが問題を引き起こしているのではないかと
『富士山に関連した調査・研究活動等』 	●富士山の自然環境保護を前提とした、正確な情報共有が重要 ●個人での活動には限界があるため、組織的な調査体制が必要 ●時期と場所を総合的に考慮した調査の実施 ●定点観測を定期的に実施し、分野別・地域別に調査報告書を作成 ●行政、研究者間、大学との連携強化による調査・研究データの活用方法検討 ●データの提供先（一般、研究者）に応じたデータの提供方法と、内容について検討が必要 ●ドローンの使用等法的な問題を考慮する ●AI等を使用して、わかりやすく説明する工夫が必要 ●調査結果の精査と信頼性の確保や一般の方への周知方法の検討が必要（冊子、SNS、映像など）
『教育活動、富士山に関連したイベント、啓発等』	●子どもたちの知的好奇心を刺激する新しい富士山の魅力を伝える方法や、臨場感のあるコンテンツを提供すると、関心を引きつけられる ●自然環境の話と、防災の話をつ結びつけて自分事として考えるきっかけになるといい ●小中学生には、現地で学んでもらうことが理想だが、交通手段の確保などが課題になる ●企業等の協力を得てバス等を確保し、学校が「継続的な学習の場」として利用できるような環境づくりが必要
『富士山に関連した企業活動、企業と協働して開催する保全活動等』	●企業は環境保全への協力意欲はあるものの、具体的な活動内容がわからない場合が多い ●ふじさんネットワークに参加していない企業の自主的な環境保全活動の推進や、保全団体との協力も必要 ●今回の交流会を通して、他の団体や企業の活動内容を理解する機会を得られたことはとても有意義 ●250を超える団体が存在するため、相互に活動内容を共有する機会を増やすべき



初めて開催した交流会ですが、情報交換が進むにつれて盛り上がりを見せ、時間の経過の早さに驚きました。

交流会で交わされた意見は非常に中身が濃く、皆様の日頃の活動や富士山の環境保全に対する高い意識に改めて感じました。

交流会終了後には、参加者同士が名刺を交換し、新たなつながりが生まれる様子が見受けられ、交流会を開催した意義を実感しました。



総会の様子



交流会の様子

また、同日午後から富士山勉強会を開催しました。

静岡県富士山世界遺産課の大石課長には、「令和7年度 富士山の登山規制」と題して、富士山の登山規制の概要を解説していただきました。合同会社森のたねの井戸代表には、「富士山麓の里山保全と活用」と題して、富士宮市柚野の風景、里山と人をつなげる活動について紹介いただきました。



県富士山世界遺産課 大石課長



合同会社森のたね 井戸代表